



# 通信

HP 学校だより  
R6. 7. 4  
NO. 15  
文責 伊藤美佳



## 「まっちぼう」って知ってる？

早いもので、令和6年度がスタートして3カ月が過ぎ、1学期も残りわずかとなりました。

1年生は国語科で「ひらがな」の学習から、単語の書き方や音読をして何が書いてあるかを読み取る学習をするようになりました。その学習の一場で、「まっちぼう」という言葉が出てきました。単語として文字を書いたり、手で音を表現したりすることはできていました。先生が「マッチ棒って、分かる？」と聞くと、何人かが手を挙げました。そして、「校長先生の問題に出てくるよ」と発言。思わず笑みがこぼれました。「何するもの」と聞かれて、「火をつけるもの」と答えられた子もいましたが、それは本当に少数で、「マッチ棒」が何か(物の形)をクイズの問題で知るという現状が垣間見られました。火をつけるもの、または、火をつけているところを見たことがある子はほとんどいないのかもしれませんが。教科書や絵本などで出てくる言葉が、子どもたちの生活とリンクしていない現状から、文章を読んだり、単語を言ったりしていても、「何」「どんなもの」といった内容とつながっていないのかもしれないと疑って話をしなければいけないと感じました。たくさん言葉を使えるようになってくれることを願っています。

また、生活科でのシャボン玉遊びや水鉄砲遊びをしていた場面では、「うまくシャボン玉ができない」と言っている子がいました。そこからが学びなのですが、何回かやってもうまくいかないと、「もういいや」とあきらめの気持ちが大きくなってしまったようです。その子を含めて見守り、その子には「シャボン玉ができた子のものとどこが違うのかなあ」と声掛けをし続けたことで、終了時間ぎりぎり少し大きめのシャボン玉ができました。それまで「シャボン玉じゃなくて、水鉄砲にしとけばよかった」「つまらなかった」とずっとぼやいていたのに、最後の一回で「できた」と言ってとても素敵な笑顔になっていました。

今回は「できた」を味わえましたが、できないことも多々あると思います。そんな時にも、見守り、励まし、頑張り続けたその姿勢を褒めてあげることが周囲の大人にできることかなと思いました。「継続は力なり」という言葉の意味を強く感じました。きっと、「継続」して取り組める力があれば、自分で歩み続けることができるでしょう。自分の足で歩み続けられる豊坂っ子が増えることを期待します。

## ビオトープの小道

業間や昼休みになると、ビオトープにたくさん子どもたちが集います。虫取り、ザリガニ釣りなど、様々な遊びをする子の中で、一人の子が「ビオトープの風が好きなんだよね」と言っていました。昼過ぎにビオトープに吹く風の心地よさを肌で感じ取っている子供の感性に感動しました。

ビオトープの棚田と小道の間の土手を地域の方が整備してくださり、小道が広くなりました。土手がしっかりして、小道も通りやすくなりました。本当にありがとうございました。